

国道沿いに続く海岸線。昇ったばかりの太陽。日  
差しが眩しい。風はかすかに吹いている。

風にのって、トンビが飛んでいる。

老人が、釣竿を立てかけ、糸の先を見つめ、おむすびを食べる。

トンビが、彼の上空を舞う。ゆっくりと彼を目指して降下し、おむすびをさらう。

海岸に少年と年上の女性が座っている。女性は海をぼんやり見ている。少年は、女性と背中を合わせ、手で砂をすくい、ぱらぱらと手のひらから砂を落とす。

トンビが二人の頭上をゆっくりと旋回する。何回か繰り返し、トンビは二人から飛び去る。

浜辺に男の裸像が立っている。4、5人の男のグループが、裸像の前に立ち、裸になり、裸像と同じポーズをとる。そばにいた人たちは、驚きも騒ぎもしない。暑い日差しの中、男たちは、拍子抜けしたように立ち去る。

トンビが風によって飛んでいく。

おそろいのウエットスーツの女性二人。二人は砂浜に置いたボードに腹這いになる。二人の前に立つ日焼けした女性の掛声で、二人は、腕立て伏せの姿勢から、ボードの上に立ち上がる動作を繰り返す。二人のうちの一人が付き添われて、海に入る。海岸線からそれほど離れていない場所から、ボードに乗って波を待つ。波が来ると、手で水をかき、ボードの上に立ち上がろうとする。すぐ水の中へ落ちる。何回も繰り返す。もう一人は、砂浜で、ぼんやり見ている。カラスが数羽、彼女のそばの砂浜に座り、海を見ている。波に乗れずにいた女性は、何回目かに、ボードに立ち上がり、今までとは比べ物にならないぐらい長く波に乗る。トンビが風によって飛んでいく。

砂浜の上にネットが張られている。一人が、ポールを上げ、もう一人が、ジャンプして、それをネットの向こうに叩き込む。二人は何回もそれを繰り返す。それが終わると、二人は、交代に相手を背中に担ぎ、走る。トンビが舞い降りようとし、急上昇して、風に乗って飛んでいく。

イベントがあるのか、ぬいぐるみを着ようとして、  
なかなか着れない男。その横で、担当者なのか女  
性が笑い転げている。笑いながら、ふと、見上げ  
た空に、トンビが飛んでいる。

黄色い帽子の幼稚園児が大勢砂浜に集まる。列を作り記念写真を撮る。歓声を上げ、小さなマイスコップを持って、海岸線に駆け出して行く。少し離れた物陰で、母親らしい二人連れが、双眼鏡で様子を見ている。一人がデジカメで写真を撮る。トンビが上空を大きく旋回する。二人は空を見上げる。

彼は、笑い声で、目をあける。寝ていたのだと気づく。夢を見ていただろうか。目の前の明るさに驚き、また、テレビを見ながら寝てしまい、朝になってしまったと思う。目の前に、部屋の天井はない。青い空が広がっている。海岸で寝ていたのだと思い出す。起き上がり、海を見る。波打ち際は、かなり近づいている。

空を見上げる。トンビが風によって飛んでいる。

波の色が変わりだす。海岸線は夕日に包まれる。